

■栗山潜鋒 漢学者、歴史家。水戸学史論を代表し、「大日本史」の論拠を整えた。

くりやませんぼう

・・・・・・1671= 山城国淀で、藩主石川氏に仕えた長沢氏の子に生まれる。

徳川綱吉將軍1680= 9歳：

堀田正俊暗殺1684=13歳：京都に出て、父の友人桑名黙斎(山崎闇齋門)について学び、才能を認められる。

故あって姓を栗山氏に改めた後、

日本永代蔵・1688=17歳：鶴飼鍊斎の紹介で、後西院天皇の皇子八条親王に仕え、古い歴史を読むごとに、保元建久の時に王綱解弛し、政権が外に移ったのを嘆き、後白河天皇即位後の30余年間のことを「保健大記」として著し、奏上。

・・・・・・1689=18歳：親王が死去したため、都下に隠棲して読書に耽り、

貧乏暮らしだったが平気で、大志を抱き、

世間胸算用・1692=21歳：*江戸に下り、たまたま水戸の光圀の彰考館修史事業に、多くの学士を招いているのに際会、儒員となり、しばしば、西山に隠棲している光圀のもと出仕。

生類憐令頂点1695=24歳：

・・・・・・1697=26歳：総裁となって安積濃泊斎や三宅観欄と仕事をした。

吉保大老格・1698=27歳：

・・・・・・1700=29歳：*光圀が死去すると、その論の相談に預かり、また中村願言(篁溪)らと、その行状を撰んだ。

もともと体が弱く、着ている物にも堪えられないように見えるも、その議論が細微になればなる程、意気昂然たるものがあったが、

・・・・・・1706=35歳：_没した。

「倭史後編」「弊帯集」「潜鋒詩稿」など。